

明けて おめでと うございます



安平町長 瀧 孝

町民の皆様、明けましておめでとございます。

清々しい新春を迎え謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

昨年は、3月11日に我が国観測史上最大のマグニチュード9.0を記録した東日本大震災が発生し、多数の方が被災され、尊い人命が失われました。

今回の震災で被災された皆様や被災地の復興を支援するため、安平町として支援金や救済物資を送り届けるとともに、被災者の受け入れのために町内公営住宅等の確保やその他生活支援を含め実施して参りました。

また、町内におきましても様々な募金活動が行われ、さらに夢民舎からは本町とゆかりのある宮城県角田市と山元町にチーズ千個を届けるなど、町民一丸となった復興支援に取り組ましました。

今後も引き続き安平町としてできる限りの復興支援に取り組んで参りたいと考えております。

一方、我が町に目を向けますと、5月15日にノーザンホースパークマラソンが開催され、プレ大会と位置付けられた今大会は、道内外から約1,330人が参加し、町内からは約240名のボランティアに協力をいただきました。競走馬が先導役を務めたり、普段入ることができない競走馬用のウッドチップコースを走るなど馬産地らしい大変すばらしい大会であったと感じております。

本年につきましても5千人規模に拡大されて開催されることとなっておりますので、安平町として昨年同様本大会を支援して参りたいと考えております。

基幹産業の農業につきましては、春先の天候不順により農作業の遅れなどの影響を受けておりましたが、6月以降の天候回復により一部を除いて畑作物も順調に生育し、概ね平年を上回る作柄となりました。酪農、畜産につきま

しては、飼料価格の高騰に加え東日本大震災における福島第一原発事故の影響により、販売価格の低迷等厳しい状況下にあります。更にTTP交渉参加方針の表明など農業を取り巻く情勢は予断を許さないものとなっております。

また、日本国内では景気の低迷による雇用情勢の悪化や貧困率の上昇など国民生活は年々厳しさを増しており、本町も例外ではなく、国の交付金を活用した経済対策の実施や個人消費の拡大などを目的としたプレミアム商品券（につきり商品券）の発行など対策を講じて参りましたが、町内の経済は依然として厳しい状況であると認識しております。

町の人口につきましても9千人を割り込み、これまで定住化施策を実施してきましたが、それを上回るスピードで人口が減少しております。このような現状から昨年より新たな移住促進事業として民間アパート建設費の助成事業を開始しました。これは平成23年度から平成25年度までの期間限定事業となっております。

すが、大きな反響があり、現在アパート建設が進んでおります。

さて、合併して早いもので6年を経過しますが、昨年は合併後10年を1区切りとする後半のスタートに当たる節目の年として「町民がオーナー」、町長はマネージャーの認識に立ち、町民本位の舵取りに徹し全力を尽くして参りました。

安平町総合計画のキャッチフレーズであります「くらしの笑顔が広がるぬくもりと活力と躍動のまち」の実現を目指し、「チームあびら」として安平町が一丸となり知恵を出し、協力し合い、住みよいまちづくりを目指して参りたいと考えておりますので、町民の皆様におかれましては今年後ともご理解とご協力をお願い申し上げます。

最後になりますが町民の皆様にとりまして幸多き辰年となりますよう心から祈願し年頭のご挨拶とさせていただきます。